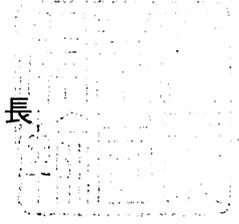




関自旅二第1549号の3
平成27年1月27日

一般社団法人 全国個人タクシー協会 関東支部長 殿

関東運輸局長



準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況
の判断結果について

標記について、平成26年1月27日付け公示「準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化の推進のために監督上必要となる措置等の実施について」に基づき別添のとおり公示したので了知されるとともに、傘下会員に対し周知されたい。



公 示

準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況の
判断結果について

平成26年1月27日付け公示「準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化の推進のために監督上必要となる措置等の実施について」に基づき、一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況の判断結果を下記のとおり公示する。

なお、需給状況の判断結果の算定基礎数値は、別紙のとおりである。

平成27年1月27日

関東運輸局長	又野	己知
東京運輸支局長	星野	朗
神奈川運輸支局長	大蔵	幸雄
埼玉運輸支局長	真秀	和正
群馬運輸支局長	高橋	哲哉
千葉運輸支局長	近藤	基了
茨城運輸支局長	高橋	芳則
栃木運輸支局長	御代田	晃一
山梨運輸支局長	安田	智容

記

平成26年度における需給状況の判断結果

都 県	営業区域名 (交通圏)	必要車両数 (両)	平成25年度末車 両数 (両)	増加可能車両 数 (両)
東 京	特別区・武三	24,086	28,158	▲4,072
	北多摩	1,607	1,749	▲142
	南多摩	1,086	1,240	▲154
	西多摩	186	209	▲23
神奈川	京 浜	5,509	6,901	▲1,392
	県 央	2,104	2,237	▲133
	湘 南	341	389	▲48
	小 田 原	405	501	▲96
千 葉	京 葉	1,307	1,515	▲208
	東 葛	911	1,105	▲194
	千 葉	1,002	1,368	▲366
	北 総	674	821	▲147
	市 原	276	385	▲109
	南 房	305	433	▲128
埼 玉	県南中央	2,195	2,552	▲357
	県南東部	1,109	1,322	▲213
	県南西部	1,337	1,562	▲225
	県 北	373	450	▲77
群 馬	東 毛	248	357	▲109
群馬・埼玉	中・西毛	783	1,098	▲315
茨 城	県 北	322	488	▲166
	水戸県央	515	757	▲242
	鹿 行	193	328	▲135
	県 南	627	934	▲307
	県 西	246	397	▲151
栃 木	宇 都 宮	619	845	▲226
	県 南	379	520	▲141
	塩 那	166	254	▲88
山 梨	甲 府	325	397	▲72

※ 上記「平成25年度末車両数」は、特定地域及び準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法（以下「タクシー特措法」という。）第2条第9項に定める事業用自動車（一般乗用旅客自動車運送事業（1人1車制個人タクシーに限る。以下「個人タクシー」という。）を除く。）の数である。

※ その他ハイヤー（道路運送法施行規則第4条第8項第3号の規定に基づき国土交通大臣が定める区分を定める告示（平成26年国土交通省告示第59号）第2号に規定するハイヤーをいう。以下同じ。）がある営業区域にあつては、算定した一般タクシー（タクシー特措法第2条第9項に定める事業用自動車からその他ハイヤー及び個人タクシーを除いたもの。以下同じ。）の必要車両数と平成26年1月27日現在の一般タクシーの車両数の乖離率を用いてその他ハイヤーの必要車両数を算定し、これを一般タクシーの必要車両数に加えて算定したものである。

附 則

本公示は、平成26年度の準特定地域における法人タクシー（一般乗用旅客自動車運送事業（1人1車制個人タクシーを除く。））の新規許可申請、条件解除の承認申請、営業区域の設定に係る事業計画変更認可申請、増車に係る事業計画変更認可申請、休車の解除に係る事業計画変更認可申請及び個人タクシーの新規許可申請について適用する。

1. 東京都

(1) 特別区・武三交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
848,740,519	878,529,189	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
23,696	848,740,519	2,169,030,571	0.44	8,817,241	0.90

② その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.22	30,310	23,696

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成25年度末現在の その他ハイヤー車両数 d
390	499

(2) 北多摩交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
50,651,800	52,264,763	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
1,607	50,651,800	112,549,007	0.49	579,859	0.90

(3) 南多摩交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
36,595,367	37,852,749	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
1,086	36,595,367	82,506,422	0.49	406,554	0.92

(4) 西多摩交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
5,998,013	6,176,499	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
186	5,998,013	12,994,757	0.52	68,495	0.90

2. 神奈川県

(1) 京浜交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
171,375,034	176,946,412	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
5,478	171,375,034	460,079,064	0.44	2,201,518	0.93

② その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.22	7,024	5,478

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成25年度末現在の その他ハイヤー車両数 d
31	40

(2) 県央交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
64,693,072	66,460,694	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
2,104	64,693,072	135,674,121	0.50	761,554	0.94

(3) 湘南交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
11,089,718	11,273,776	0.98

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
341	11,089,718	23,221,113	0.51	120,832	0.90

(4) 小田原交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
9,432,611	9,828,981	0.96

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
405	9,432,611	23,188,872	0.47	155,162	0.90

3. 千葉県

(1) 京葉交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
38,264,278	39,281,032	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
1,300	38,264,278	86,900,914	0.49	477,796	0.90

② その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.14	1,506	1,300

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成25年度末現在の その他ハイヤー車両数 d
7	9

(2) 東葛交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
25,338,091	26,007,888	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
911	25,338,091	57,671,481	0.49	333,325	0.90

② その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.17	1,104	911

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成25年度末現在の その他ハイヤー車両数 d
0	1

(3) 千葉交通圏

① 一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
22,685,634	23,530,074	0.96

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
982	22,685,634	57,713,762	0.44	360,675	0.90

② その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.27	1,340	982

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成25年度末現在の その他ハイヤー車両数 d
20	28

(4)北総交通圏

①一般タクシー

輸送需要量 $A=B \times C$	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
14,543,773	14,972,096	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
583	14,543,773	31,990,317	0.47	199,078	0.90

②その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.18	711	583

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成25年度末現在の その他ハイヤー車両数 d
91	112

(5)市原交通圏

輸送需要量 $A=B \times C$	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
5,111,403	5,389,162	0.95

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
276	5,111,403	11,864,847	0.51	107,154	0.90

(6)南房交通圏

輸送需要量 $A=B \times C$	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
6,835,624	7,227,798	0.95

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
305	6,835,624	15,589,965	0.51	117,221	0.90

4. 埼玉県

(1) 県南中央交通圏

①一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
54,781,498	56,206,086	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
2,181	54,781,498	121,738,933	0.48	759,441	0.90

②その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.17	2,616	2,181

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成25年度末現在の その他ハイヤー車両数 d
14	17

(2) 県南東部交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
27,880,468	29,020,394	0.96

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
1,109	27,880,468	61,067,686	0.47	378,176	0.90

(3) 県南西部交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
40,907,585	42,108,117	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
1,337	40,907,585	89,269,596	0.50	480,816	0.90

(4) 県北交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
7,818,753	8,192,136	0.95

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
373	7,818,753	17,534,892	0.52	143,217	0.90

5. 群馬県

東毛交通圏

輸送需要量 $A=B \times C$	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
5,328,553	5,636,959	0.95

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
248	5,328,553	11,990,801	0.53	97,303	0.90

6. 群馬県・埼玉県
中・西毛交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
13,609,953	14,211,655	0.96

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
783	13,609,953	30,305,182	0.51	295,179	0.90

7. 茨城県

(1) 県北交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
6,189,496	6,503,461	0.95

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
322	6,189,496	15,491,611	0.47	124,968	0.90

(2) 水戸県央交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
10,647,834	10,976,977	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
515	10,647,834	25,326,168	0.50	200,267	0.90

(3) 鹿行交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,751,092	3,910,474	0.96

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
193	3,751,092	9,331,505	0.51	80,445	0.90

(4) 県南交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
13,296,156	13,967,408	0.95

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
627	13,296,156	32,350,516	0.49	246,554	0.90

(5) 県西交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
4,347,845	4,621,404	0.94

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
246	4,347,845	10,173,775	0.52	98,964	0.90

8. 栃木県

(1) 宇都宮交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
14,670,374	15,084,681	0.97

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
619	14,670,374	31,299,079	0.51	223,614	0.90

(2) 県南交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
7,083,960	7,461,454	0.95

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
379	7,083,960	16,804,670	0.51	149,671	0.90

(3) 塩那交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,568,384	3,793,973	0.94

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 365 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
166	3,568,384	8,038,960	0.52	63,788	0.90

9. 山梨県

甲府交通圏

輸送需要量 A=B×C	平成25年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
5,926,229	6,284,558	0.94

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷365÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
325	5,926,229	15,719,402	0.46	131,840	0.90

※「直近5年間分の対前年度比率の平均値」、「実車率」、「実働率」及び「乖離率」の数値は、小数点第3位で四捨五入して記載しているため、必ずしも計算結果は一致しないことがある。